



第63号
平成30年2月28日
発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
宮城県伊具郡丸森町雁歌51
TEL 0224-72-2020
URL <http://www.igukou.com>
発行責任者 鈴木英晴
印刷所
佐藤印刷株式会社



「住みたい町を創る ワークショップin伊具高校」

同窓会会長

佐藤吉市

会員の皆様には平成30年の新春を穏やかに迎えられましたこととお喜び申し上げますと共に、お元気で活躍のことと存じ、心からお喜び申し上げます。
29年度、母校からの卒業生が、同窓会に入会することになりました。心から歓迎すると共に、大きく世界に飛び立ち伊具高校の名声を広めて頂きたいと希望するものです。
平成23年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から、丸7年目を迎えるようとしています。沿岸部の復興も目で判断できるほどに進んでいるようです。生活まで安定しているように見えませんが、はいえ、着実に復興は進み、仮設住宅も次々に取り壊されています。



今年度も妻と役員数人で新地町と丸森町との境界にある430mの鹿狼山に、初日の出の参拝登山に、朝5時出発で大内から出かけてみました。約1時間30分で山頂到着、風もなく穏やかな海、早朝7時頃には若男女3000人程となり、参拝者の数にはビックリしました。初日の出も例年よりすばらしく、心新たな朝でした。数年来の願いであった丸森町側の展望が、立木のために悪かったものを去年12月に伐採しており、360度のすばらしい眺めになっております。機会がありましたら登山を勧めたいです。

丸森町議会の菊地修一議長から伊具高校生徒との議会懇談会を開催したいとの話しをいただき、29年4月から高校との打ち合わせ等を数回重ね、庄司校長、西村教頭はじめ、教職員の全面的な協力を得、29年11月14日、「住みたい町を創るワークショップin伊具高校」と題して、第1回の懇談会が開催されましたので、その内容を同窓生の皆様にお知らせしたいと思います。

①目的「議員の目的」
②未来を担う若い世代から、地域に対して普段感じていないことを聞いて、地域の課題を明らかにし、今後のまちづくりの政策に反映させる。
③少子高齢化時代に「どうすれば地域に若者が定住するのか」若者の意見を聞き、早期に対策を図る。
④議会と町の将来について、関心を高めてもらう。
⑤生徒の目的
⑥民主主義社会を担い、より良い地域社会づくりに主体的に参画する生徒の資質・能力を育成する。
⑦選挙権年齢を18歳以上に引き下げた平成27年6月の公職選挙法の改正を受け、参政権に係る学習の場(機会)とする。
⑧社会の一員として自立し、権利と義務の行使を通して、積極的に社会形成・社会参加に関わろうとする態度を身に付ける。
⑨社会参画に係る実践力の育成を通して、地域社会が抱える具体的な課題の解決に係る体

験的・実践的な学習の場とする。
これらを目的に、当日午前9時より11時50分まで、伊具高校の第2体育館で行われました。参加者は議員全員の14名、生徒は86名(2年次生全員)で、懇談会の形式はワークショップ方式で行われました。その方法はファシリテーター(司会進行役)を中心に、参加者全員が体験するものとして運営される形態で、参加者一人ひとりの個性や価値観は尊重され、自由な発言をすることが出来る懇談会形式で始まります。懇談会のメインテーマは「自分が住みたいまちは、どんなまち」とし、サブテーマは、「まるもりのココが好き」、それがまとまれば「好きをもっと広げよう」というテーマに移行し、司会の進行で生徒・議員が意見を出し合い、まとめ・総括まで50分で終わるスケジュールです。1班を議員が2名、生徒が4〜5名で構成し、1組7班で懇談会を開催、3組ありますので、50分の懇談会を3回することになり、10分の休憩で3回生徒達と懇談することになるので、議員達は大変だったと思います。議員達は大変良かった、笑いも見られ、すばらしい懇談会が終了したと思います。終了は11時50分でしたので、議員全員と関係者が学校食堂で昼食を話し合いの結果を議会事務局でまとめたのでお話ししましょう。
①まるもりのココが好き

・自然が豊か・人が優しい
・お米が美味しい・齋理屋敷
②好きをもっと広げよう！
・空き店舗で丸森産の米を使った食堂を開く
・丸森駅を派手にする
・自然に関わるイベントを行う
③自分が住みたいまちはどんなまち
・自然が豊かで綺麗な町
・人が優しく親切な町
・イオンモールのような大きなお店がある町
・イベントや花火大会などがある、交流があり賑やかで楽しい町
・食や特産品が充実した町
多くの意見が出され、改めて生徒達の丸森・角田を思う気持ちを伝えることができました。
④懇談会の感想
・自分が住んでいる丸森について考えることができて良かったです。
・丸森にどのようなものがあるのかわかりました。
・丸森が良い町になればいいと思います。
・話し合いで出た意見を実施して欲しいと思いました。
いろいろな意見を出していただき、議会でも懇談会が有意義だったと判断しており、次回も開催したい考えを持っております。
最後に議員の感想を一言。「生徒がすっかりとした考えを持っており感心しました。身近な議会を通じて政治に親近感を持っていただければと思います。」
(農業20回・大内支部)



創立百周年
—同窓生と地域と共に—

学校長

庄司 径 二

同窓会の皆さまには、常日頃より本校の教育活動に対しまして、ご理解・ご支援を賜わり、心より感謝申し上げます。平成27年4月から歴史と伝統を誇る伊具高校に着任以来、早いもので3年が過ぎようとしています。皆様から、温かく迎えて頂き多くの励ましの言葉に支えられて学校経営を進めて参りました。今年度も、本部同窓会総会を始め、角田支部、大張支部、大内支部、金山支部の総会・親睦会に出席させていただき、多くの同窓生の皆さまから、貴重なお話を伺うとともに惜しみないご支援を頂いていることに対しまして改めて御礼申し上げます。

さて、今年度は94名の新入生を迎え学校がスタートし、「質実剛健」「穩健着実」の校訓のもと、本校の教育重点目標として、①基本的な生活習慣を養成し、社会人としての資質・能力を身に付けさせる。②基礎学力の定着を図り、希望進路達成できる学力を身に付けさせる。③勤労観・職業観を養うキャリア教育を組織的に推進する。④学校行事・部活動・地域連携活動の活性化を推進する。⑤安心して学校生活を送れるよう、安全

教育を推進する。を今年度も重点目標として、安心安全な学校づくりとともに、「知・徳・体」の調和の取れた人材の育成を目指し取り組んでまいりました。今年度も生徒諸君は熱心に諸活動に取り組み、各方面で活躍してくれました。特に、今年度は、7月から8月にかけて、全国高等学校総合体育大会「南東北総体2017」と全国高等学校総合文化祭「みやぎ総文2017」が開催されました。全国から選手・役員の皆さんをお迎えし、東日本震災から7年目となる年に、これまで頂いた支援への御礼と感謝の気持ち伝えることができたものと思えます。本校においても、夏休み中にもかかわらず、多くの生徒が参加や補助役員として活躍してくれたことに対し感謝しているところであります。

また、例年行なわれていた各種大会やコンクール・展覧会等へ参加し、多くの入賞を果たすなど、大いに活躍をしてくれました。運動部では仙南総体においては、柔道部男子、ソフトテニス部男子の活躍、新人大会においては、陸上部の県下高校駅伝や投てきでの活躍がありま

した。しかし、野球部においては部員4名で3年生が引退し、現在1年生2名という状況であり、合同チームとして各大会に参加しているところです。現状として、野球部に限らず、各部とも部員不足の状況ではあるが、少ないながらも一生懸命日々の練習を頑張っています。次年度に向けて、部員確保を目指し、今後の活躍を期待したいところです。

また、文化部においては、吹奏楽部の吹奏楽コンクール、美術部の仙南高校美術展での活躍、書道部の高野山書道協会賞や日本童謡の書展覧会で大賞、写真部の高校写真展で入選など多くの活躍がありました。その他にも、電気機械部が電気自動車エコーラン競技大会四輪部門で、昨年に続き1位2位独占という素晴らしい結果を残してくれました。また、今年度も全国砂像甲子園・全国そば打ち選手権大会への参加など系列における活躍もありました。

さらに、地域に根ざした活動として、「齋理幻夜」「丸森町総合文化祭」「花の植栽」など、生徒の活躍の場を提供頂いていることに対し感謝申し上げます。次に、進路面においては、生徒の希望する進路実現に向け「進路保証100%」を目指し、計画的・継続的に進路指導に取

り組んでおります。近年、大学・専門学校への希望が増加傾向にあり、このことから入学して行く生徒の進路の目指す方向が、より高いレベルに移行しつつあることが分かります。就職希望者においては、地元志向が多い傾向にありますので、生徒の将来の可能性がより広がるよう、保護者の方々のご理解を得ると共に、同窓生の皆さまのご支援を頂きながら、この流れが継続するよう努めてまいりたいと考えています。

最後にありますが、本校は3年後の「2020年」東京オリンピック開催年の「平成32年」に、創立百周年を迎えます。今後は、事業実行委員会の充実を図り、同窓会・PTA・学校として地域との連携をさらに進め、皆様と一緒に記念事業成功に向け努力してまいります。

創立百周年を迎える本校の歴史と伝統に敬意と感謝の気持ちを中心に刻みながら、地域社会から一層信頼される学校づくりと変化する時代を生き抜く力を備えた人材育成に努めてまいりますので、今後とも母校発展のために、同窓会の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



- 協議事項
- 一 平成28年度事業
- 二 平成29年度事業計画・予算案審議
- 三 役員改選について
- 四 母校創立百周年記念事業について
- 五 会報・ホームページへの支那記載について
- 六 その他
- 懇親会
- 国民宿舎あぶくま荘 午後4時

平成29年度総会報告
8月6日(日) 午後3時
(評議員会 午後2時)
国民宿舎あぶくま荘

祝受章

瑞宝単光章

齋藤 謙 一様
(農業17回・小斎支部)



齋藤様は昭和44年4月に丸森町消防団に入団され、平成22年10月

20日の退団まで41年6か月の長きにわたり、消防活動に尽力された功績が認められ、この度瑞宝単光章を受章されました。その間、副団長を務めるなど団の統率の面でも尽力されました。その消防活動の中でも特に忘れられないのが、平成14年3月に次郎太郎山西側で発生した林野火災だそうです。夕方5時30分ごろ、「火が道路を越し危険であるので避難しろ。」との連絡が不徹底で、一旦解散したこともわからず、火の向かう方向に民家があるということで深夜10時まで消火活動を懸命に行ったそうです。筆甫川平地区の火事の際には、現地について不案内な救急車の先導をしたこともあったそうです。また、小斎の分団長としては、本部からの人数分だけしか炊き出しを持って行かないようにとの司令に対し、部下のことを考えて、できるだけ補給用食糧を持参し、支障なく消火活動ができるようにする

などの配慮を行ってきたそうです。退団してからはサイレンが鳴ったときの心配がなくなつたとのことですが、副団長の時は火事の連絡が大河原の広域消防本部に入ると、団長・副団長の携帯電話に連絡が入るため、決して電源を切らず、就寝時も枕元におくなどの配慮を忘れずにしていたということでした。町の消防団員は400人にもものほり、実際の消火活動だけでなく、常に団員のことについても配慮される、責任感の強い方だとお見受けしました。

齋藤様は消防だけでなく、この度、町の町有林管理委員会委員として、森林造成に尽力されたとして町長表彰も受けられました。これまでに小斎防犯協会会長や土地改良区・共済組合・有害鳥獣駆除隊、さらには県の特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会イノシシ部会の委員も歴任されました。また、公民館運営委員のほか、生涯学習協力委員として、小斎地区で3月に行われている奉射祭(やぶさめ)の復活にも尽力されています。在学中は梅の木平の開墾や第1体育館前の蚕室での宿泊実習が特に思い深いそうです。根っ子入農場での豚・鶏の実習が始まって最初の学年だったということでした。

地域に根ざし、地域のために生涯を送られていることが今回の受章につながったのだと思

ました。今後もお元気で活躍ください。(事務局 鈴木英晴)

瑞宝単光章

佐藤 賢 治様
(農業22回・大内支部)



佐藤賢治様は、多年にわたり日本郵政公社職員として郵政事業に尽力

された功績が認められ、この度瑞宝単光章を受章されました。事務局がご自宅に伺った際には、奥様も母校生活科のご出身ということと、一緒にお話を伺うことができました。

佐藤様は母校卒業後、日本郵政公社に就職し、初任地の仙台中央郵便局を皮切りに、角田市西根郵便局・角田郵便局で勤務され、名取郵便局でご退職を迎えられたとのことでした。41年もの長きにわたり郵政事業の中でも集配の仕事に尽力されました。名取郵便局では集配業務の人員配置の仕事を受け持たれました。東日本大震災では4台の配達用バイクが津波に飲まれたものの、うち1台が奇跡的に無傷で、その郵便物を1軒1軒に届けたときのことが忘れられないそうです。感謝する人もいれば、逆に罵る方もいたそうで、気苦労が絶えなかったことと思

います。郵便物をただ届ければ良い

のではなく、郵便物1通の大切さや、たった1通の郵便物がその人の人生を左右するかも知れないということを感じ知らされたとのことでした。一人ひとりの立場に立つと、郵便物の重さは基本的に変わらせず、信書の大切さを感じたそうです。

また、配達の仕事というのは人が人のところへ届けるものなので人づくりが大切で、人を作らないと配達の仕事はできません。その例として、初任者が初めてお客さんのところに行つた時、あいさつができたかどうか確認するそうです。お客さんか挨拶されたら声を掛けられたりしたときはしっかりと返事ができないと、真の仕事はできないとのことでした。郵便物を事務的に届けるのではなく、人とのつながりを大切にされた佐藤様の誠実なお人柄が表れるお話だと思

いました。在学中は根っ子入農場や除北農場での実習や、牛乳を瓶詰めして校内販売したことが思い出として残っているということでした。シクラメンを栽培し、販売した最初の学年ではなかったかとお話を伺いました。どうぞこれからも奥様ともども健康に留意されお過ごしください。(事務局 鈴木英晴)



丸森町長および角田市副市長ご臨席のもと、昨年を上回る43名が参加しました。昨年度事業・会計報告および今年度事業計画・予算案が承認されました。また、役員改選では現役員が再選され、母校創立百周年記念事業に向けて継続的に取り組んでいただくことになりました。百周年記念事業に関しては、平成28年12月8日に開催された実行委員会総会の報告とともに、実行委員会および専門委員会役員が承認されました。さらに、多くの会員より事業に関する建設的な意見が出され、今後の事業に生かしていくことになりました。その後の懇親会でも熱気は冷めず、母校に対する想いは尽きることなく、時間を忘れて親睦が深められていきました。(事務局 鈴木英晴)

支部だより

同窓会小斎支部総会

が開催される

松本幹郎

(農業20回・小斎支部)

平成29年3月15日(水)、同窓会小斎支部の総会が小斎まちづくりセンターで開催されました。

当日は思わぬ春雪(積雪15cm)となり、大雪で足元を悪くするとともに、来賓として佐藤同窓会長並びに庄司校長が出席し祝辞を述べられました。

開会にあたって高橋支部長より「久しぶりの支部総会開催となったが、次代につながるよう組織作りと運営を行っていきたい。」旨の挨拶がありました。

協議では支部長が議長を務め、平成29年度の事業計画(案)や収支予算(案)が意義なく承認されるとともに、役員改選では新たに横山博昭氏を支部長に選出して、現高橋支部長を始め、星國雄副支部長並びに星功監事を顧問に推戴、これまで副支部長が兼務していた庶務会計を独立させるなど、新たな支部体制が発足いたしました。今後の活躍が期待されます。

また、同窓会事務局長より学校の現状報告があり、出席者からは平成32年度(2020年)に控えている創立百周年記念事業等に話題が集中し、母校の節目を飾る記念事業をしっかりと展開できるようにしなければなら

ないとの思いが強まりました。最後に、新たに支部長に就任になった横山氏より「本部と連携して百周年を発信し、記念事業を意義のあるものになるよう力を合わせていこう。」との挨拶をいただきました。

耕野支部の総会及び

今後の伊具高について

八島 健

(農業17回・耕野支部)

会員の皆様、こんにちは。私事、平成29年度の総会にて耕野支部長を任命されました。今後ともよろしくご指導の程お願いいたします。

支部の総会ですが、皆様どういうわけかわかりませんが、集まったのが数名で、その中で役員改選とのこと。しかも今までの役員は全員解任とのことでした。この人数では役員改選はできないのではと意見を申し上げましたが、規約にはないということになりました。資料を見ますと、会員名簿が古く、現会員の新生簿作成が急務なのかと思っております。

私が伊具高を卒業したのは昭和41年で、校名も伊具農蚕高等学校から伊具高等学校に変更になって第1回の卒業です。私達は戦後のベビーブームにあつて農業科は62名の同級生でした。農業科1クラス、商業科1クラス、生活科2クラスということで大勢の学年でした。あれから50数年、今や少子化にともない宮城県の高校でも統合あるいは

閉校を考える学校もあると思います。先日の新聞に県立から町立への移行も考えられるとのことでした。全国では19校の町立高等学校があるようですが、いざ丸森町ではと思うと疑問に思われます。

角田支部から

小形とき子

(生活20回・角田支部)

青葉若葉の輝きに満ちた季節となった平成29年5月27日(土)、角田市尾山・内町荘で、平成29年度宮城県伊具高等学校同窓会第3回角田支部総会・懇親会(支部長・湯村勇)が開催



されました。佐藤吉市同窓会長様、学校からは校長先生、他4名の先生方が出席して下さいました。また、角田市長の大友喜助

様、同窓生でもあられる丸森町長の保科郷雄様も快く出席して下さいました。丸森町大張支部長の大槻孝雄様にも出席していただいて総勢31名となりました。開会の前に角田支部恒例の校歌を斉唱し、総会が始まりました。

庄司径二校長先生よりご挨拶をいただき、母校の近況報告がありました。同窓会長様からは、3年後に迎える母校の創立百周年記念事業の今後の予定についても含めてのご挨拶をいただき、議事に進み、平成28年度の事業・会計報告、平成29年度の事業計画の提案があり、承認されました。

多くの皆様のご厚意に支えられ開催されているのが、この角田支部同窓会総会です。毎回出席して下さいている律儀な方から、初めて出席していただいた方まで、年齢層も幅広くなっておりますが、同年代だけとの交流だけでなく、立場や年齢の垣根を越えて遠慮なく意見の交換ができるのも、同窓会ならではの味わい深いものだと思っております。

懇親会では多くの方々が学生時代に気分が戻り思い出話に花が咲き、楽しい時間を過ごしていました。

平成30年度第4回角田支部総会・懇親会は平成30年5月27日(日)午後12時より「内町荘」(角田市尾山山入、(送迎バス有))で開催する予定です。会員の皆様、お誘い合わせの上、是非ご参加下さいまして、楽しい時間を過ごしていただきたいと思います。

大内支部総会報告

矢吹純一

(農業21回・大内支部)

秋の収穫を前にした、平成29年9月9日、同窓会大内支部総会が大内の焼き肉店「光成苑(がんそんえん)」で開催されました。出席者は29名と、丁寧な総会開催の案内に努めたこともあり、昨年より大幅に増えました。

総会は、菅野秀一支部長の挨拶で始まり、続いて佐藤吉市同窓会会長から同窓会本部総会の報告を兼ねた挨拶をいただき、庄司径二校長からは母校の後輩たちの活躍の様子等についてお話をいただきました。また、3年後に迎える母校の創立百周年事業の準備状況の報告と協力要請が池田友利事務局長からありました。

この後、議事に入り事業報告・会計報告は審議の結果、すべて承認されました。また、今年度は役員改選期にあたることから、次期役員について諮られましたが、創立百周年事業を成功させるために、役員は交代しない方がいいという意見が大勢を占め、菅野秀一



支部長以下全役員が留任することとなりました。

総会終了後の懇親会では、母校の思い出やお互いの近況報告、さらには大内地区をいかにして盛り上げるか等で話しが盛り上がりしました。

実は私、支部総会に初めて参加しました。卒業後地元を離れることが長かったことも理由ではありますが、支部総会には役員だけが集まるものと勝手に思っていたところもありました。そういう思い違いをしている人が他にもいるのではないのでしょうか。そうではなく、同窓生のすべてが集う場ですので、来年度の支部総会にはこそぞって参加いただこうお願いし、報告と致します。

金山支部総会

石田 隆

(普通7回・金山支部) 伊具高校は、平成22年(2020年)に学校創立百周年を迎えます。今、その記念事業の成功に向け、一丸となつて力強い歩みを進めています。

さて、同窓会金山支部では、去る1月21日、佐藤同窓会長、庄司校長先生、鈴木・池田両先生のご臨席をいただき、地元の「もり総合会館」において支部総会を開催しました。

来賓を代表し、佐藤同窓会長から百周年に向けての同窓会の取り組みが、庄司校長先生には、在校生たちの地域にとけ込んだ活躍の様子、部活動での活躍、進路についての学校の指導など、

多方面にわたり紹介をいただきました。

また、鈴木先生からは百周年事業内容や式典についてなど詳しくご説明いただきました。

総会は、宮本副支部長の司会で始まり、議長席に支部長が着席、冒頭支部長から、「本総会が平成24年以来であることは、いかに『総会が必要と認めたときに支部長が招集する』と会則にあるにしても、6年も開催しなかったことは申し訳ない。」と謝罪があり、今後は、開催頻度を高め、会員相互の親睦と母校、同窓会本部との情報の共有を図っていきたくと発言、了承されました。

議事に入り、経過報告、会計報告が承認され、更に今後の活動等についても話し合われました。

役員改選では、欠員となつていた庶務に、加川芳伯氏が選任されたほか、支部長以下については、現在の役員が再任され、引き続き支部を運営していくこととなりました。



総会
は、1
時間ほ
どで終
了し、
懇親会
に移り
ました
が、久
しぶり
という
ことも
あり、
和気

萬々の時間を過ごし散会となりました。

大張支部総会

平成29年8月26日(土)に大張支部総会が国民宿舎あぶくま荘にて行われ、34名が参加しました。大張支部総会は例年この時期に開催され、参加を楽しみにしている人も多いのではないのでしょうか。

総会前には母校校歌のCDが流れ、参加者全員で斉唱しました。その後の総会では、まず、支部長挨拶、同窓会長・校長よりの祝辞があり、議長選出では支部長が選出されて、議事に入りました。議事では昨年度の事業計画・収支決算、および今年度の事業計画・収支予算の他に、今年度は会則の変更についても議案として協議されました。会則は各地区2名の他に女性5名の幹事を置くというもので、女性の方の関わりが重視され、今後の支部活動が期待されるものとなりました。

更に今年度は同窓生でもある丸森町長の保科郷雄様をお呼びして、まちづくり座談会が行われ、今年度の事業についての詳しい報告がありました。

座談会後の懇親会は例年を上回る盛り上がりとなり、大張支部の結束の固さが感じられる会となりました。

(事務局 鈴木英晴)



親睦を深め母校を支える13支部

本会には県内外に13の支部があり、母校と連絡しながら会員相互の親睦を深め、母校の発展と地方文化の向上を目的として活動しています。近年は母校創立100周年を間近に控え、支部の活動が活発になり、多くの方々に参加いただいています。創立100周年の記念すべき日を多くの同窓生の方々に祝っていただくためにも、さらに多くの皆様にかかわっていただきたいと考えています。

支部の活動に興味をお持ちの方は、同窓会本部 鈴木 (TEL0224-72-2020) までご連絡ください。

本会の支部

- 丸 森・金 山・大 内・筆 甫・小 齋
- 大 張・耕 野・舘矢間・角 田・柴 田
- 白 石・仙 台・関 東

同窓会の情報はホームページから

平成22年12月より本会のホームページを開設しています。内容は会長あいさつ・役員名簿・会則をはじめ、思い出広場としてフォトアルバムが掲載されているほか、母校の校歌や応援歌を聞くこともできます。また、事務局からのお知らせとして、総会や各支部の情報を随時掲載しています。会員の皆様にはぜひアクセスしていただき皆様の交流に活用していただければと考えております。

本会ホームページには「伊具高校同窓会」で検索していただくか、下のURLを利用してアクセスしてください。



URL <http://www.igukou.com>

母校だより

新制服導入

生徒指導部長 渡辺 和宏

平成32年に創立百周年を迎えるに当たり、これからの地域の人材育成の中心となる教育活動を実践し、これまで以上に伊具高校の存在を地域や県内外にアピールできる制服を基本構想にデザインを一新しました。

新制服では、「清潔さ」「明るさ」「若者らしさ」「知的さ」などのイメージをデザインの基本構想としました。

また、学校所在地である丸森町の町づくりスローガンである「水とみどりの輝くまち」および本校の校木である桑の葉をイメージした青系・緑系色をデザインに取り入れました。

具体的な制服選定作業は、平成28年度に校内制服検討委員会を立ち上げ、制服業者の選定やデザインの検討を行い28年度末に新制服デザインを決定いたしました。

デザインの決定には、在校生の意見を取り入れられるようHRなどでデザイン写真を提示し、各クラスで意見をとりまとめ



れをデザイン決定にも反映させました。

出来上がった制服は、男女ともスーツタイプの制服で襟元の白いラインが印象的です。

また、色は、写真では黒一色に見えますが、生地に独特の織りが入り、見る角度により印象が変わります。

県内では珍しい男女ともネクタイを採用しました。

校章のバッジを胸元にあしらうことにより一層引き締まった印象にしました。

機能的には、家庭での洗濯機での丸洗いが可能なものになりました。

新制服は、校訓である「質実剛健」、「穩健着実」の精神が体现できるデザインとなりました。

本校が、新たな制服でさらに地域の人材育成の拠点となり社会に貢献し、しっかりとした将来に向けた教育活動を進めたいと考えています。

柔剣道場を改装

柔道部・剣道部のさらなる活躍に期待

昭和54年1月18日に新築落成した母校柔剣道場は、40年の歳月が過ぎ、老朽化が目立っていました。とはいえ、剣道部・柔道部に所属した多くの同窓生の皆さんにはたくさんの方の青春時代の思い出の詰まった大切な建物なのではないかと思えます。その柔剣道場は今年度大規模改造工事が行われ、快適に活動ができる建物生まれ変わりました。工事は平成29年10月中旬から



翌年1月下旬までの約3か月半にわたって行われました。工事の内容は、屋根が従来の小豆色から緑色に葺き替えられたほか、外壁と床の張り替え工事が行われました。

また、高所にも窓があることから窓の開閉器も取り付けられ、カーテンレールがつき網戸も入って、日差しを遮ったり虫



の侵入を防ぐことができるようになりました。照明も母校では初めてのLED照明となり、消費電力量を抑えることができます。

在校生には新しい柔剣道場で、より一層の活躍を期待したいと思います。

(事務局 鈴木英晴)

母校創立100周年記念事業進捗状況

母校が平成32年に創立100周年を迎えるにあたり、これまでの準備状況と今後の計画をお知らせします。平成29年度の本会総会では実行委員会および専門委員会の役員が承認され、これからは専門委員会を中心に準備が進められていきます。

- 平成27年度 平成28年2月22日(月) 「創立100周年記念事業実行委員会 設立準備委員会」発足
- 平成28年度 平成28年12月8日(木) 「創立100周年記念事業実行委員会設立総会」 「創立100周年記念事業事務局」発足 「記念事業専門部」の設置
- 平成29年度 「記念事業」実施要項策定(各事業専門部) 「記念事業予算」策定 「資金活動計画」策定
- 平成30年度 「記念事業の準備」(着手)
- 平成31年度 「記念事業の準備」(継続)
- 平成32年度 「創立100周年記念式典」挙行 「創立記念行事」実施

記念事業実行委員会役員(同窓会関係)

委員長	佐藤 吉市
副委員長	小形とき子
常任委員	菊地 清明
	湯村 勇
	池田 幹夫
	南部 昌秀
幹事	13支部長
監事	林 力男

専門委員会

	専門部名	部長
1	記念式典	佐藤 吉市
2	記念誌	小形とき子
3	記念祝賀会	湯村 勇
4	記念講演・アトラクション	菊地 清明
5	感謝状贈呈	池田 幹夫
6	記念品	南部 昌秀

生徒の活躍

- 仙南総体ソフトテニス大会
 - 男子団体 第3位
 - 男子個人 第3位
- 仙南総体柔道大会
 - 男子団体 第3位
 - 男子個人 第3位
- 全日本吹奏楽コンクール県大会
 - 100kg級 第3位
 - 加賀山航大
- 高等学校小編成の部 銅賞
- 仙南高校美術展
 - 奨励賞 山戸田亜美
 - 優秀賞 山内 楓
- キャンパスロスステッカーデザインコンテスト2017
 - 優秀賞 山内 楓
- 生徒活動成果発表会
 - 展示発表の部団体 奨励賞 今野 祥希
 - 弘法大師奉賛高野山競書大会 加藤のりか
 - 高野山書道協会賞 加藤のりか
 - 2017電気自動車工コラン競書大会inSUGO
 - 四輪部門 優勝 電気機械部
 - 四輪部門 優 勝 電気機械部
 - ジュニアクラス 第2位 電気機械部
 - 松島モデル大撮影会 第6位 電気機械部
 - 高校生の部 入選 櫻井 海王
 - 仙南高校写真展
 - 銀賞 井上 寧音
 - 銅賞 八巻 呂亜
- 高校生ものづくりコンテスト県大会
 - 旋盤作業部門 優良賞 今野 祥希
- 仙南新人陸上競技大会
 - 男子ハンマー投げ 第2位 大條 竜矢
- 県高校写真展
 - 入選 八巻 呂亜
- 県高校生選抜書展
 - 秀作賞 横山こはる
 - 金賞 加藤のりか
- 全日本アンサンブルコンテスト
 - 県大会予選仙南地区大会 銅賞
- 管打楽器七重奏
 - 特選 横山こはる
 - 漢字の書 特選 横山こはる
 - 大賞 横山こはる
- 日本童謡の書展覧会
 - 大賞 横山こはる
- 全国学生書道展
 - 優秀賞 横山こはる

系列紹介「農学系列」

母校は平成11年度から、「総合学科」に学科改変し、現在、「農学」「機械」「情報」「福祉」という、科目選択の目安である4つの系列が設置され、生徒は学習に励んでいます。昨年度の福祉系列に続き、今年度は農学系列を在校生が紹介します。

農学系列紹介

3年 栗田 菜々子

農学系列で3年間過ごしてきた私ですが、3年次生で初めて参加した大会もありました。様々な大会に参加し、結果を残したことは少なかつたのですが、

自分では良い経験になったと思います。

そんな農学系列の行事や大会を紹介していきたいと思っています。最初は、1年次生にとっては初めての農学の行事「苗販売会」です。4月下旬から5月上旬まで行われます。野菜や花の苗を販売しており、野菜ではナスやトマトなどを、花ではマリーゴールドやペチュニアなどを毎年販売しています。他にも珍しい品種の苗や接ぎ木苗も販売しています。

次は、農業クラブ員が参加する「家畜審査競技会」を紹介します。この大会は肉用牛の部と乳用牛の部があり、外見だけで良い家畜はどれかを見分ける大

例年大好評の「春の苗販売」

同窓生ばかりでなく地域の方々が心待ちにしているのが、「春の苗販売会」です。今年も4月下旬から5月上旬に開催が予定されています。宮城県内の高校では最も早い時期に開催されています。営利目的ではなく生徒主体の行事ですので、至らない点も多いかと思いますが、生徒たちは一生懸命学びながら接客を頑張っています。その点、ホームセンターや種苗店より格安です。苗の種類(品種)が多く、定番に加えて少し変わった珍しい野菜の苗も用意されています。遠くは福島や仙台からもお客様がお出でになり、去年は行列ができて、駐車場では渋滞が起きるほどでした。期間中は土日休日を含めて、午前9時から午後4時まで開催します。会場は本校川向農場です。校舎西側の県道丸森梁川線の看板を目印にお越し下さい。皆様のお越しをお待ちしています。



ザンビアの研修生との交流

会です。私は肉用牛の部に参加しましたが、伊具高校は家畜がないため、一から勉強するかありませんでした。1年次生の時は結果を出すことはできませんでした。2年次生で出場した時は奨励賞をいただくことができました。勉強して覚えるのは大変でした。それでも諦めず結果を残すことができました。とても嬉しかったです。

さて次は、3年次生で初めて出場した「砂像甲子園」です。この大会は秋田県三種町で行われ、制限時間内でアイディア・インパクト・テクニク等を競う大会です。砂像を作ることから初めてだったため、プロの方達に教えてもらいながら作りました。結果は残念せませんでした。楽しく制作ができたので良い思い出になりました。

最後は「そば打ち選手権大会」です。制限時間内で完成させるだけでなく、練り・延ばし、

エゴマプロジェクト

3年 小川 峻

エゴマは平成27年度から作付けを始めました。最初は町の活性化につながることをして、ボランティア活動を中心に行っていました。しかし、それだけでは活性化につながりませんでした。そこで、丸森町の特産品で何かできないかと考えたところ、エゴマの栽培に注目しました。理由として、丸森町で栽培している農家が多いことや搾油機械があるからです。この2つを組み合わせることで、地域連携が取れると思ったからです。エゴマの成分は脂質が非常に高く、2種類の必須脂肪酸があります。その中でもα-リノレン酸の効果は絶大といわれています。特に脳の活性化に役立ち、脳出血の予防にもなります。セルトレーで苗を作り、定植をし、収穫・乾燥・搾油という流れで行いました。これらの一連の栽培指導を本校の同窓会長である佐藤吉市さんに教わりました。そしてエゴマ油を使用した食

切る技術も加算されるため、出場する大会の中ではとても大変だったと思います。結果を残すことはできませんでしたが、そばを作る技術を学べて良い経験になりました。他にも大会はありますが、どの大会もこれからの経験に生かせると思います。農学系列は人生の一部になったと思います。



品開発をしました。古代米を使用したパンでは、エゴマをスプーン1杯入れて、一次発酵、二次発酵して作りました。焼き上がりは美味しいのですが、冷めると硬くなることに改良の余地があると思いました。しかし、エゴマ油の変性についてPTAの方より指摘を受けました。油自体は70℃を超えると本来持っているリノール酸やα-リノレン酸の効果が薄れるので、生搾りが最適だと言われているそうです。

次に調味料に挑戦してみました。エゴマドレッシングとエゴママヨネーズです。ドレッシングは口当たりが良いが、最後に液体として皿に残るのもったいないと言われました。エゴママヨネーズは自分好みにできるため好評でした。今後はエゴマ油の販売と安定収穫術を目指して取り組みたいです。

会員の声

恩師を囲んで

池田幹夫

(農業19回・丸森支部)

私は母校在学中の3年間、野球部に入り練習・練習の日々を過ごしました。当時は野球専用のグラウンドがなく、現校舎の南側にあった狭い共用のグラウンドで、陸上部・テニス部・バレーボール部がひしめき合って練習しておりました。フールボールがテニスコートやバレーコートに飛び込むことが何度もあり、今になって振り返ってみると、よく大きな事故もなくやっていられたものだと思ひます。

3年間、監督として私達を指導してくださったのが小野正彦先生でした。その小野先生が、本年、めでたく満80歳の傘寿をお迎えになりました。そこで町内在住のOBより、「ぜひお祝い会を開きましょう。」という



声があがり、実行委員会では準備を始めました。そして、去る11月18・19日に相馬市の「栄荘」に小野先生ご夫妻をお迎えし、盛大

なお祝い会を開催することができました。

当日は32名のOBが集まり、遠くは横浜市、塩釜市からの参加もありました。また、ゲストとして前伊具高野球部監督の原田一貴先生にもご出席いただきました。参加者のメンバーは昭和38年卒業から昭和54年の卒業生まで幅広い年齢でしたが、一人ずつ当時の思い出や近況などをスピーチしていると、瞬く間に時が過ぎていきました。

先生からも今だから話せるエピソードなどもたくさん話していただき、奥様からもご苦労が多かった思い出を語っていただきました。年齢差はあっても、伊具高で野球をやっていたという共通の想いは、OB全員の心の財産なのかも知れません。私が卒業してから半世紀の時が流れ、母校も新しい校舎となり様変わりしました。後輩の皆さんの活躍をお祈りいたします。

卒業してから

池田友利

(総合7回・柴田支部)

総合学科を卒業し、現在は母校で教員となり働いています。教員になろうと思ったのも大学に行こうと思ったのも2年次の終わり頃でした。急な進路変更をしてしまい、両親にも先生方にもご迷惑をおかけしました。しかし、親元を離れた北海道の大学では、有意義なキャンパスライフを過ごすことができました。知り合いもいない新天

地での生活は、新たな発見ばかりでした。これまで家族に囲まれ、両親に衣食住の援助を受けていたという生活を改めて実感しました。大学卒業後は、北海道や宮城県内で講師や実習助手として働き現在に至ります。

高校を卒業して感じたことは、自らが発信しなければ、または行動に移さなければ、始まりもせずに終わりにもならないということ。高校時代は、何をすることも先生方から声をかけてもらい、時期をみて何をしなければならぬのかを教えていただきました。しかし、卒業してからは、自分自身との戦いでした。友人は普通高校出身で、勉強も高校で学んだことを生かして学習を進めていけますが、私の場合は高校で学んできたこと以上の発展的な問題ばかりで、追いつくのが簡単ではありませんでした。周囲と同じように勉強していても追いつかず、他の人より一人一倍努力しなければなりません。

この頃から高校生の友人とは、ほぼ連絡を取っていませんでしたが、唯一連絡をしている友人がいます。頻度は多くはありませんが、互いに報告しあい大学生の頃から今まで手紙を書いていきます。お互いに年を取り合いますが、色々なことを書いてきました。後輩の皆さんにも高校生活でかけがえのない友人を作ってほしいと思います。

最後に、高校時代の先生が導いてくれたおかげで今の私がいます。本当に感謝しています。

クラス会だより

生活技術科第2回卒業生クラス会開催しました!

廣幡純子

(生技2回・大内支部)

昨年8月12日、角田市にて生活技術科第2回卒業生のクラス会が盛大に行われました。

幹事の皆さまのお声かけにより、卒業以来初めて開催されたクラス会です。案内ハガキに「早いもので、20年の月日が流れました。」(実際は20と数年ですが...)とあり、一瞬、自分が何歳になったのかと、指折り数えてしまいました。ハガキを手にして、当時の思い出の数々、同級生に恩師の顔、それに木造の家庭実習室と、次々に脳裏に浮かんできます。

月日は流れ、SNSの盛んな時代となり、直接会わなくてもお互いの近況を知る事のできる時代となりました。実際に、卒業以来一度も会っていないのにSNSでつながっている同級生もいます。しかし、顔を合わせられるとなると、同じ近況報告でも話は別です。きっと、楽しい時間と、意外なその後を知る事ができるだろうと、心を弾ませて当日を迎えました。

当日、会場に着くと、約20名の同級生、そして3年間担任としてお世話になった、高橋彩子先生と再開する事ができました。それぞれの近況や、思い出話は大いに盛り上がり、あつと



いう間にあの頃の生活技術科「E組」の教室に戻ったような雰囲気になりました。

先生はすこく大人で、私達は「清く・正しく・美しく」と指導を受けた少女(?)で達でした。月日が流れれば、いつか先生のようになり自立したステキな女性になれると確信していた時代だったように思います。

つまり、先生は私達の憧れの女性・姉のような存在でした。20年が過ぎ、私達は40代を迎えました。今の私達から見ても女性として輝いている先生、そしてそれぞれの人生を生懸命に進んでいる私達。先生、生徒の関係を果たせたように感じ、とても感慨深いクラス会となりました。

編集後記

数年に一度といわれる寒さの中、校門の雪かきをしていると、「ぐるっと回ってやろうか。」との声、玄関前のロータリーを一周し、すっかりきれいに雪をかいていただきました。母校が同窓生はもちろん地域の方々にも愛されているあかしく、ただただそのご厚意に感謝するばかりでした。ありがとうございます。同窓会事務局 鈴木英晴 池田友利